



豊かな自然・
かがやく文化
大好き阿賀町

～「阿賀町15年教育」で未来の創り手を育む～

阿賀町学習指導センターだより

令和3年9月15日（水）№14

授業づくり研修② 上川小 梅澤 駿 先生

国語 単元「宮澤賢治作品のデジタル紙芝居をつくろう」、主教材「やまなし」の授業、本時のねらいは、「登場人物の言動や情景を表す表現 に着目して読むことを通して、物語の全体像を想像することができる(他)」です。

「デジタル紙芝居」をつくるという単元を貫くテーマを設定した構想です。子どもたちが主体的に学習に取り組むことができるようにする、しかけの一つですね。



導入。「板書記録」から、これまでの学習をふり返り。「学習の連続性」を子どもたちに意識させる上で大切です。梅澤先生は、「板書記録」を活用されています。

子どもたちは、学習のめあてを共有し、さっそく活動に取り掛かります。まず、教材文を読んでいきます。そして、Google スライドにあらかじめ読み込みされた教科書の挿絵にコメントの入力、イラストの挿入を行っていきます。

Google スライドで作成させることで、リアルタイムで子どもたちの作業状況を共有させたいとの意図をお持ちでした。

展開。「今日の学習リーダー」が作成したものに対し、ほかの子どもたちが自分との共通点や相違点を上げたり、リーダーの作成物への修正点を指摘したりします。このようにして製作物の精度を高めたり、情報量を増やしたりしていきます。(※)

全員で練り上げていくというスタイルが見られました。また、ここで、子どもたちの発言に対し、梅澤先生が、終始、「教科書のどこの部分からわかるのですか。」「それって、どういうことなのですか。」と教科書(物語)と子どもたちをつないだり、反駁したりしていらっしゃいました。教科書から離れた発言にならないよう、子どもの読みを深めよう、このような指導は素晴らしいと思います。

終末、子どもたちが学習をふり返ります。(次ページ)



①「十二月の世界を想像し、スライドにまとめよう」
 ②「五月は美しい、明るい世界だと分かった。明るい十二月と暗い五月で、作者が何を伝えたいのかを、次は考えたい。」
 ③「虹の『もかもか』とか、やまなしの『ぼかぼか』とか、柔らかい様子を表す言葉が多いね。」
 ④「落ちてきたやまなしを追いかけて、川下に向かってかかっているね。やまなしは『ぼかぼか』流れている。面白い表現だね。」
 ⑤「登場人物の画像を用意しておき、スライド内に位置付けさせる。比喩表現が表すものは、スライド内にテキストで書き込ませる。」
 ⑥「『十二月』の世界を想像し、スライドにまとめよう」
 ⑦「五月よりは明るいと思う。昨日みたいに、スライドに表して確かめたいな。」
 ⑧「デジタル紙芝居を作ることを目指し、昨日は、『五月』の様子をスライドにまとめました。登場人物の位置や向きを考えたり、比喩表現や様子を表す言葉に気を付けたりすることで、五月は全体的に『暗い』『怖い』ということが分かりましたね。『十二月』は、どうでしょうか。」



宮澤賢治作品の独特な表現に関心をもつ記述も見られました。また、授業終了後、ふり返りの内容で気になる児童に対しては、個別に指導する様子が見られました。子ども自身が考えを確かめるとともに、梅澤先生自身の児童理解にもつながるものでした。また、上川小では、1学期の校内研修の反省を踏まえ、より分かりやすい指導案づくりを進めていच्छやいます。研修の進め方を見直し、改善することはとても大切です。

第6学年 国語科学習指導案
 単元名 宮沢賢治作品のデジタル紙芝居を作ろう！
 主教材 「やまなし」

令和3年9月8日（水）第2校時
 授業者 教諭 梅澤 駿

1 本時のねらいと評価規準

観点	国C 読む力	主 学びに向かう力、人間性等
ねらい	登場人物の言動や情景を表す表現に着目して読むことを通して、物語の全体像を想像することができる。	自分が想像した物語の全体像が妥当かどうかを確かめようとする。
評価規準	叙述に即して登場人物の絵をスライドの中に位置付けるとともに、情景を表す言葉を説明している。(スライド・発言)	スライドを友だちと見比べたり、本文を読み直して叙述に即したスライドになっているかを確かめようとしていたりしている。(行動観察)

2 本時の展開

C: (ふりかえり) 最初は十二月が大切だと予想していた。スライドに表すと、明るい世界だと分かった。明るい十二月と暗い五月で、作者が何を伝えたいのかを、次は考えたい。

C: (ふりかえり) 最初は何を表しているのかわからない言葉があった。でも、スライドを作って友達と話し合ったら、表しているものが分かった。表しているものが伝わるようにデジタル紙

まとめ 「十二月」は、明るく優しい世界が表現されている。登場人物の行動や、様子を表す言葉に気を付けて読むことが大切。

C: 暗い五月に比べて、十二月は明るい。題名が「やまなし」だから、作者は十二月を大事にしているのかな。

C: 「怖い」とは違って、優しい感じ。かわせみも出てこないし、穏やかな表現も多い。

FB8: 「十二月」は、どのような世界ですか？

C: 虹の「もかもか」とか、やまなしの「ぼかぼか」とか、柔らかい様子を表す言葉が多いね。

C: かにの歩く方向が分かった。やまなしから出るお酒を楽しみにしている感じがするね。「青いほのお」は、波を表しているんだね。

FB9: 各自のタブレットを使って、友達のスライドをリアルタイムで閲覧できるようにしておく。15分間、自分のスライドを作った後、全員集合して考えの相違を確認させる。

C: 落ちてきたやまなしを追いかけて、川下に向かってかかっているね。やまなしは「ぼかぼか」流れている。面白い表現だね。

C: かにはどこを向いているんだろう。「青いほのお」って何だろう。友達に聞いてみよう。友達は、どんなスライドを作ったのかな。

FB1: 登場人物の画像を用意しておき、スライド内に位置付けさせる。比喩表現が表すものは、スライド内にテキストで書き込ませる。

課題 「十二月」の世界を想像し、スライドにまとめよう

C: 題名の「やまなし」が出てくるから、五月よりも大事なことが表されてそうだ。

C: 五月よりは明るいと思う。昨日みたいに、スライドに表して確かめたいな。

T: デジタル紙芝居を作ることを目指し、昨日は、「五月」の様子をスライドにまとめました。登場人物の位置や向きを考えたり、比喩表現や様子を表す言葉に気を付けたりすることで、五月は全体的に「暗い」「怖い」ということが分かりましたね。「十二月」は、どうでしょうか。

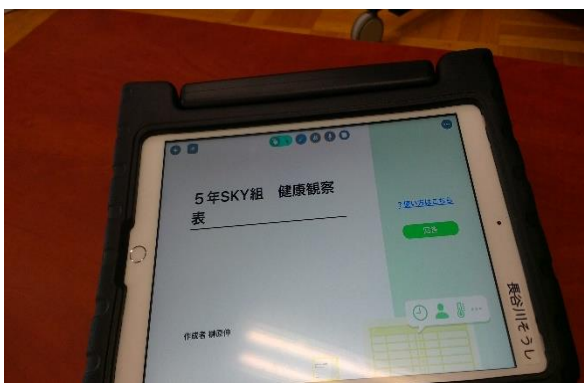
「バックワードデザイン」による指導案。

上川小の研究内容である形成的FBが分かりやすく記述されている。

タブレット端末活用研修～上川小の取組～



子どもたちへのタブレット端末の貸与に向け、各校に保護者の皆さんの確認書をいただくことになりました。いよいよオンライン授業を含め、家庭でのタブレット端末を使用した学習を進めていくことになります。そのためには、すでに周知しておりますタブレット端末利用のルールの確実な順守が前提です。各校におかれましては、子どもたちへすでに指導していただいております。継続的な指導をお願いします。



さて、夏季休業中、上川小学校で行われたオンライン授業等を想定した研修に参加してきました。情報教育主任の榊原先生が指導者となって、「Google meet」、「Google classroom」、「ロイロノート」によるオンライン授業等の活用方法を説明してくださいました。

まず、ロイロノートを使った「健康観察」です。

(写真下)子ども自身に体調管理させ、その意識を高めることができると感じました。さらに、養護教諭の先生方の出席簿の回収、出欠数の集計といった負担を減らすこともできるようです。

次に、Google classroom のストリームを活用した、「週予定」など学級連絡の方法を示してくださいました。

最後に、「Google meet」によるオンライン授業についてでした。入室の仕方、黒板の映し方などを説明してくださいました。授業以外にもタブレット端末を活用することで、子どもたちのICTに関するスキルを高めていくことができる好例であると思いました。

学習指導センターとしましても、オンライン上のグループワークの仕方等、オンライン授業について、先生方と研修を行いたいと考えております。後日、改めて計画等、ご案内します。

◆ ロイロノート「出欠カード」について詳しくお知りになりたい方は、「ロイロ サポートページ」で検索してください。

- ・ 出欠カードでできることは、① 出欠席の連絡の集約 ② 健康観察データの集約 ③ 出席簿記載データの取得です。
- ・ サポートページでは、「出欠カード利用開始までの準備」「生徒・保護者側の操作」「出欠記録の集計・確認」「健康観察をロイロノートで」の動画を視聴できます。

発行 阿賀町学習指導センター

〒 959-4392 東蒲原郡阿賀町鹿瀬 8931 番地1

☎ 0254-92-3337(直通) ☎ 0254-92-2116

E-mail kohiyama_hyk4042@town.aga.lg.jp

kyoiku3@town.aga.ed.jp



町の鳥 ウグイス